

地域医療に関する定住自立圏構想推進シンポジウムin旭川の概要

開催日時 : 平成23年10月2日(日)13:30~16:30

開催場所 : 旭川ターミナルホテル(北海道旭川市宮下通7丁目) 参加者数 : 205人

基調講演 : 旭川医科大学学長 吉田晃敏 氏

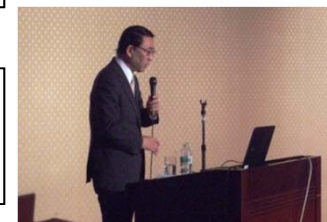
北海道の地域医療の課題は、過疎化と医師の偏在。旭川医科大学では、地域の医療格差を解消するために、北海道に残る医師を増やす方策と医師の少ない地域でも医療を提供できる方策を考え、医学部の地域枠の定員を増加させることで、北海道に残る学生数を増やすとともに、医師の少ない地域にも高度医療が提供できる遠隔医療を推進している。 ※道内出身者比率 H19:34%→H23:83%



吉田 晃敏 氏

問題提起・基調報告 : 自治医科大学教授 梶井英治 氏

医療は限りある資源であるため、かかりつけ医を定着させ、医療機関が役割分担を行って病診連携を進めることが必要である。コンビニ受診の抑制等の住民への啓発活動も重要であり、住民・行政・医療機関が一体となって、どのように地域の医療を守り育てていくかを考えなければならない。



梶井 英治 氏

パネルディスカッション

○ 北海道旭川市長 西川将人 氏

上川中部圏域は、人口10万人当たりの医師数は北海道内でも多いほうであるが、小児科、産婦人科、整形外科等では医師の確保が困難な状況にある。旭川市としても予防医療にも力を入れるなどして、圏域において地域医療を守る上で中心的な役割を担っていかなければならない。

○ 宮崎県延岡市長 首藤正治 氏

救急医療体制の整備に向けた医師会の努力や市民団体による適正受診の啓発等によって、医師の過重労働が問題となっていた県立延岡病院の時間外受診患者が減少した。地域医療を守るという機運の高まりを継続した取組とするため、「延岡市の地域医療を守る条例」を制定した。地域医療を守るためには、市民・行政・医療機関の連携が重要である。

○ 北海道上川町長 佐藤芳治 氏

個々の患者の状況をきちんと把握し、専門外でも診察してくれる家庭医を町内の診療所に配置した。今後は旭川を中心とする2次医療機関との連携を強化することによって、圏域全体が安心できるような医療体制の確立を図りたい。

○ 旭川市医師会会長 山下裕久 氏

旭川市では当番医制を行っており、夜間は夜間急病センターを開設しているが、安易に2次医療機関を受診する患者が多く、医師の負担が大きくなっている。旭川市医師会では、2次医療機関を1次医療機関がどうやって手助けできるかを話し合っている。

○ 旭川赤十字病院院長 後藤 聡 氏

救命救急センターの運営やドクターヘリの活用などを行っているが、医師数が足りていないことが一番の問題である。限られた医療資源を有効に使うために、各病院が同じような診療をするのではなく、病院ごとに特徴のある診療をやっていきたいと考えている。

